

2023

家族のきずなエッセイ

第11回作品集



主催

今治伯方モラロジー事務所

協力校

今治市立伯方小学校・吉海小学校・上浦小学校・
大三島小学校

今治市立伯方中学校・大島中学校・大三島中学校

◇◇ ごあいさつ ◇◇

今治伯方モラロジー事務所は、一昨年前まで、今治市伯方島島内の小中高等学校を対象に、計 10 回の「家族のきずな」をテーマにしたエッセイの募集をして参りました。そして昨年は、今治市内の他のモラロジー事務所と合同で、市内全域の小中学校を対象に募集を行いました。しかし、今回は単独で募集対象を今治市の大島、大三島、伯方島の小中学校に絞り行うことと致しました。応募の呼びかけに対して、224 編もの応募をいただきました。

今年は初めて応募いただいた学校もあり、先生方にはお忙しい中、新しい試みにご協力いただきお礼申し上げます。今年の中には、変化する社会環境の中で、家族が一丸となって共に助け合い、乗り切っていく様が書かれたものがあり、家族の間の愛情の深さが伝わってきました。

私たちは、令和という新時代を迎え、様々な問題に直面しております。ウイルスによる感染症、それに伴う経済の低迷、気候変動、少子化、国際化、世界的な地域紛争等問題は山積みです。そんな時にこそ、家族の存在が大切になってくるのではないのでしょうか。家族がいるから頑張れる。家族の結束が子供たちの生きる力になるのではないかと思います。この事業では、子供たちが書いてくれた作品が、子供たちだけでなく、それを読む私たち大人まで、あらためて家族の大切さを再確認し、より良い家庭、家族、ひいては地域づくりの一端にでもなればと思っています。

本冊子「家族のきずな」エッセイ作品集には、応募いただいた中から選んだ 20 編の入選作品が掲載されています。掲載されなかった残りの作品の中にも素晴らしいものがたくさんありました。

最後に、このエッセイ事業に対しご協力いただいた各学校の先生方、審査員の皆様、生徒の親御様、ご協賛いただいた会社の皆様にはたいへんお世話になりました。この場を借り、厚く御礼申し上げます。今後このエッセイが、継続発展していくことを願いあいさつとさせていただきます。

今治伯方モラロジー事務所
代表世話人 阿部真三

第11回「家族のきずな」エッセイ入賞者

【今治市長賞】

村上 晴哉 伯方小学校4年1組 じまんのじいちゃん・・・3

【今治市教育長賞】

野間 俐音 伯方中学校3年A組 私の本音・・・・・・・・・・4

【モラロジー道徳教育財団賞】

門田莉々咲 伯方小学校4年1組 そんなけいするお父さん・・・5

【愛媛県モラロジー協議会賞】

中野 泰佑 伯方中学校3年B組 くつろぎの時間・・・・・・・・6

【入 選】

阿部 紘大 伯方小学校4年1組 家族のきずな・・・・・・・・・・7

武田 帆音 伯方小学校4年1組 家族のかたち・・・・・・・・・・8

金子 愛理 上浦小学校4年1組 おじいちゃん がんばるね・9

田原 光兜 大三島小学校4年 エイエイオー・・・・・・・・10

田中 麦 吉海小学校4年松組 家族の大切さ・・・・・・・・11

村上 瑠奈 吉海小学校4年松組 わたしのじまんの家族・・・12

片山 統吏 伯方小学校5年1組 ぼくのひいばあちゃん・・・13

西森 若菜 伯方小学校6年1組 家族の大切さ・・・・・・・・14

林 苺 伯方中学校1年A組 ありがとう・・・・・・・・・・15

田中 湊 大島中学校1年1組 憧れの人・・・・・・・・・・16

岡村 百花 大三島中学校1年A組 思い出の写真・・・・・・・・17

菅 黎子 大三島中学校2年A組 奇跡の生還・・・・・・・・・・18

小林 結月 伯方中学校2年A組 大切＝心配性・・・・・・・・19

赤瀬 優羽 伯方中学校3年A組 妹・・・・・・・・・・・・・20

野間 瑞央 伯方中学校3年A組 太陽な家族・・・・・・・・・・21

田原 神埜 大三島中学校3年A組 冬の思い出・・・・・・・・・・22

【 今治市長賞 】

じまんのじいちゃん

伯方小学校 4年1組 むらかみ はるや
村上 晴哉 さん

じいちゃんは、朝早くからみかんの仕事に行きます。だけど、ぼくが学校に行く時間には、家の前まで帰ってきてくれて、

「はるや、いってらっしゃい。」

と毎日ハイタッチをして、お見送りをしてくれます。ぼくが、入学してからずっとしてくれています。

他にも毎日してくれていることがあります。

じいちゃんは、夕方になると、仏様におねがいごとをしています。

「まごのはるややとうまが明るく元気で活発にすごして、すなおな子になりますよう、よろしくおねがいしますっておねがいしよんよ」と教えてくれました。じいちゃんがぼくのことを大切に思ってくれているおかげで、けがや病気もしないし、学校や友達とも楽しくできているのだと思います。じいちゃんも、

「はるやらのおかげで今が一番最高よ。」

とよく言ってくれます。ぼくが100才になるぐらいまで、ずっと元気でいてほしいです。

【今治市教育長賞】

私の本音

伯方中学校 3年A組 のま野間 りのん俐音 さん

最近の私は、家族に冷たくしてしまうことが多くなっている。何か言われたことに対して、すぐイライラして部屋を出て自分の部屋にこもったり、口をきかなくなってしまう。本当はそんなことしたくない。家族を傷つけているのは分かっている。正直今の私は嫌いだ。自分で感情のコントロールができなくて、さらに自分に腹が立ってくる。結局、家族に冷たくしてしまう負のループだ。

こんな態度をとってしまう、私の本音を伝えたい。まずお母さんは、毎日家族のために家事をしてくれて、相談に乗ってくれて、一緒に怒ったり笑ったり、楽しい毎日を送らせてくれてありがとう。お父さんは仕事の時間が過ぎても働いたり、遠くまで仕事に行ったり、家族のために笑わせてくれてありがとう。最後に弟。弟は私に対して口が悪いけど、全部本音じゃないのは分かっている。こんなわたしを大切にしてくれる家族のみんなが一番の宝物。大好きだよ。

【モラロジー道徳教育財団賞】

そんけいするお父さん

上浦小学校 4年1組 もんでん りりさ
門田 莉々咲 さん

私のお父さんは、けいさつかんです。毎朝お母さんは、「いってらっしゃい。」と、笑顔で見送ってくれるけど、お父さんは、「ちゃんと左右を見てわたるんだよ。」と言います。私は、小学4年生だから、それくらい分かっているよ、と思ってしまいます。

ある日、学校の交通安全教室で、私の県は昨年89件も、子どもが関係する事故が起こっていることを知りました。そして、ニュースでは、小学生が交通事故にまきこまれて亡くなってしまう事故を見ました。お父さんがいつも言っていることは、私の命を守るために言ってくれている **ことだ**と知りました。私は、自分の命を自分で守れるようになりたいと思いました。

家族の安全だけではなく、ちいきの人の安全も守るけいさつかんのお父さんが、私は、大好きです。これからも、元気な声で、「いってきます」と言いたいです。

【 入選 小学校の部 】

家族のきずな

伯方小学校 4年1組 あべ こうだい
阿部 紘大 さん

ぼくの家族は、父、母、ぼく、妹の4人です。メダカやクワガタも入れたらもっといるけど、家にいる人間は4人です。

ぼくがお母さんの言うことを聞かなくてしかられていると、お父さんが「まあまあ」と助け舟を出してくれます。

ぼくがお父さんにむ理なおねがいをすると、お母さんが「おとうさんは仕事でつかれているんだから」とフォローします。

お母さんがいそがしくて妹の面どうを見られない時、ぼくが妹と楽しく遊んであげます。

妹が笑っているのを見るだけで、ぼくを幸せな気分にしてくれます。

おたがいにこまっていたら、助け合います。ぼくがこまったときは、どうしたいいか相談します。家族に問題がおこったときは、家族会ぎで一番いい方法を話し合います。

とく別すごい思い出はないけど、毎日たくさんの思い出がたまっていったら、もっと強い家族のきずなになると思います。

【 入選 小学校の部 】

家族のかたち

伯方小学校 4年1組 たけだ ほのん
武田 帆音 さん

私の家族は、父ちゃん、母ちゃん、弟のげんちゃん、私の4人家族だ。

父ちゃんは、2ヵ月間、船に乗る船員さん。小さなころから毎日は家にいない父ちゃん。たまに帰ってくると、ずっといてくれる父ちゃん。帰ってくるときくと、今でもとってもうれしくて、早く会いたいくて待ちどおしい。父ちゃんが船に乗船してしまうとわかる前日の夜から当日の朝は、やっぱりなれなくて、さみしい。でも、笑顔で父ちゃんを送り出すのが、わが家のルールだ。

母ちゃんは。毎回、父ちゃんにバイバイをしたあと、「また父ちゃん帰ってくるまで、3人で楽しくがんばろうね」という。そんなふうに笑顔で言ってくれる母ちゃんが、本当にしたのもしくは大好きだ。

2ヵ月間3人でがんばると、父ちゃんにまた会える。あっという間でちょっぴり長い私の2ヵ月。私の家族のかたちは、毎日是一緒にいれないけど、いつもつながっている。

【 入選 小学校の部 】

おじいちゃんががんばるね

上浦小学校 4年1組 かねこ あいり
金子 愛理 さん

わたしは小さい時から、ずっとおじいちゃんのことを、大
すきでした。おじいちゃんは何があっても、ずっとわたしの
そばにいてくれました。おじいちゃんは優しいです。お土産
を買ってくれたり、かみをかわかしてくれたり、わたしの大
すきなおじいちゃんでした。

でも、一番いやな日がやってきました。おじいちゃんが急
にたおれました。わたしはそれを聞いて、すぐに病院に行き
ました。病院に着くと、おばあちゃんと親せきのおばちゃん
が来ていました。お父さんが、すごく悲しそうな顔をしてい
ました。

帰るとき、お父さんがすごく小さく
「おじいちゃんに、もう会えないよ」と言いました。
みんなが、泣きだしました。おじいちゃんは、すごく優しく
て楽しい人です。だからおじいちゃんがいなかったら、わた
しはいやだと思いました。でも、おじいちゃんがいなくても、
わたしはお姉ちゃんだから、おじいちゃんががんばるね。

【 入選 小学校の部 】

エイエイオー

大三島小学校 4年 たはら あきと
 田原 光兜 さん

ぼくの家では、田んぼがありお米を作っています。箱なえや、いねをハウスに運んだり、水やり、田植え、いねかりの時は、家族みんなで手伝います。ぼくも一生けん命がんばります。

この前は、台風がくるので、みんなで雨がふっている中、かかし30人くらいと、おどし20こぐらいを急いでのけました。かかしが雨にぬれて重いし、どろだらけになって大変だったけど、家族が力を合わせてできたのでよかったです。お母さんたちも

「手伝ってくれて、助かったよ。」

と言ってくれてうれしかったです。

次は、いねかりなので、家族で助け合ってしゅうかくしたいです。家族みんなで大切に育てたお米が、またおいしく食べられるのが楽しみです。

【 入選 小学校の部 】
わたしのじまんの家族

吉海小学校 4年松組 むらかみ るな
 村上 瑠奈 さん

わたしの家族にはいいところがたくさんあります。一つ目は、あいさつをわすれないところです。わたしが朝起きたら何よりも早くお父さんとお母さんが明るく「おはよう」と声をかけてくれます。わたしは、その明るい「おはよう」の声のおかげで毎日気持ちよく起きられています。二つ目は、朝ごはんをしっかりと食べるところです。お母さんが用意してくれた朝ごはんをしっかりと残さず食べて、学校に行きます。お母さんは見送るときに、「行ってらっしゃい。がんばっておいで。車に気を付けて」と毎回言ってくれます。おたがいが見えなくなるまで手をふっています。だから、お母さんは家族みんなが大すきなんだなと思います。三つ目は、みんなが家族思いなところです。わたしが転んで、ひざから血が出たままで帰ったときは、お父さんやお母さんが「大じょうぶ」と言っただけをさがしてくれます。そんないいところがたくさんある家族を大切にしたいなと思います。

【 入選 小学校の部 】
ぼくのひいばあちゃん

伯方小学校 5年1組 かたやま とうり
 片山 統吏 さん

89才のひいばあちゃんに会いに行った。認知症で、家族の名前をすっかり忘れてしまった。母さんに、

「名前思い出してもらえなくて、悲しい？」

と聞くと、

「母さんは今のひいばあちゃんも大好きよ。」

と笑顔で言った。

帰る時、ひいばあちゃんが、

「みんなに会えてうれしかった。ありがとう。」

と何回も言ってくれた。

ひいばあちゃんのうれしそうな顔を見ていると、みんな笑顔になった。

家族がひいばあちゃんとの思い出を大切にしていれば、ひいばあちゃんがみんなのことを忘れてしまっても、悲しいことではないと思った。

「いつまでも元気で、長生きしてね。」

ガラスごしに手と手を合わせて、バイバイした。

【 入選 小学校の部 】

家族の大切さ

伯方小学校 6年1組 にしもり わかな
西森 若菜 さん

私の母さんの姉兄は二人います。みんな違う地区や他県に住んでいるため、みんながそろうことはありません。しかし、年1回だけ夏の季節に全員が集合します。なぜなんだろうとお母さんに聞いてみると、

「じいちゃんの命日が8月だからかな。ばあちゃんもみんなに会いたいやろ。どんなに忙しくてもお母さんたちはあつまるんよ。お母さんは仕事から、家族になかなか会えない人の話をよく聞くから、ばあちゃんには元気なうちにみんなと会って、笑って、思い出いっぱいつくってほしいんよ。」

と書いていました。

たしかに、ばあちゃんはおばちゃんやおじちゃん、いとこたちにあえてとってもうれしそうでした。私もうれしくなりました。私が大人になった時、私達姉弟3人もお母さんたち姉兄のような関係をつくっていきたいと思いました。本当に仲良しの家族で大好きです。

【 入選 中学校の部 】

憧れの人

大島中学校 1年1組 たなか みなと
田中 湊 さん

僕の父は、学芸員をしています。特に、戦国時代から江戸時代を中心に調べている考古学者です。そのため、社会などの分からない所や雑学などを教えてくれます。そのような父に僕は憧れています。だから、僕は父のような学芸員になりたいです。

幼い頃から父に憧れていました。父が働いている博物館にもたくさん行きました。幼い頃、父は僕の住んでいる地域にまつわる昔話を話してくれました。小学校の時、行事などでその博物館に行くことがあり、皆の前で僕の父が話すということが少なからずありました。そのようなことを初めて見た時に、初めて父のようになりたいたと思いました。

だから、中学校では社会をものすごく頑張っています。特に歴史が好きなので、父に似ているのかなと思うことがよくあります。いつか父と一緒に働きたいです。

【 入選 中学校の部 】

思い出の写真

大三島中学校 1年A組 おかむら もか
岡村 百花 さん

毎年夏休みと春休みには、私と姉で祖母の家に行きます。祖母は、もう90歳を過ぎていますが、今でも家に行ったときは必ずちらし寿司を作ってくれて、元気です。

去年、私は春休みに祖母の家に行ったときに、卒業写真を見せました。すると祖母は、

「お父さんの写真も見る？昔は可愛かったんだよ。」

とって、アルバムを持ってきてくれました。アルバムには父と、私が小さい頃に亡くなった、祖父の写真がたくさんはってありました。パラパラとめくってみると、アルバムの最後の方には、私と姉の小さい頃の写真もありました。私は、それがとても嬉しかったです。

祖母の家を出るときは、必ず1枚写真をとります。そして次に家に行ったときには、その写真が飾られているのです。これからも祖母とたくさんの思い出をつかっていきたいです。

【 入選 中学校の部 】

奇跡の生還

大三島中学校 2年A組 かん れいこ
菅 黎子 さん

それは突然のことでした。雨の日に父が仕事に行き、姉も母もお出かけしている時でした。「お父様が事故にあいました」。その一言をドクターカーの人から聞いた瞬間、時間が止まった気がしました。急いで病院に向かい、ドラマで見るような機械につながれている父を目にし、血の気が引いていくのを感じました。号泣する姉をつれて帰る時も、ずっと父のことが気がかりで不安でした。

その後、父は無事に退院し、今では元気に仕事やゲームをしています。改めて父の偉大さが分かりました。あの時、ずっと号泣していた姉も、今では父とゲームをしています。その様子を見て、不安な目をしていた母も、優しい目をして、くすっと、「おじいちゃんのおかげかもね」と笑いながら言っています。

ただの偶然の**奇跡**かもしれないけど、「おじいちゃん、お父さんを守ってくれて、ありがとうございます」と伝えたいです。

【 入選 中学校の部 】

大切＝心配性

伯方中学校 2年A組

こばやし ゆづき
小林 結月 さん

「ありがとうとごめんなさいは必ず言いなさい」。これが私の母の口ぐせだ。また狭い道を通るとき、道路側を歩いてくれる。しかし、私は母の苦手なところが一つある。それは心配性なところだ。部活動や学校へ行くとき、毎回のように「タオル入れた？水筒持ってる？」とか「忘れ物はない？」とすごく心配してくるのだ。私は少しイライラしてしまう。だから苦手だった。

でもある日、友達の体調が悪くて休んでいたときに、ラインで「体調は大丈夫？」と送ると、「もう大丈夫。心配してくれてありがとう」と返ってきた。ここで私自身も心配性なのだ気付かされた。そしてもう一つ大切な事を知った。心配してくれているということは、とても大切にされている証拠だということだ。大切な存在だからこそ心配してくれる。そう思うと心が温かくなった。

私は、誰よりも心配性で道路側を当たり前のように歩いてくれる母が大好きだ。そして、私もいつか母のようになりたい。

【 入選 中学校の部 】

妹

伯方中学校 3年A組 あかせ ゆうわ
赤瀬 優羽 さん

私は、小学2年生までずっと一人っ子でした。ところが、小2の最初ぐらいに、お母さんがなんらかの用事で病院に行きました。その時、私はお父さんと駐車場で待っていました。なにも知らない私は、車の中で外をぼーとながめていたのを覚えています。そして、お母さんが帰ってきました。車にお母さんが乗ってきました。すると、お母さんは1枚の写真を私に見せてきました。それは、なんと小さな小さな命でした。「姉ちゃんになるよ」と言われ、涙が出ました。この頃私が姉になるとは思ってもいませんでした。でもずっとほしかった妹。車の後部座席で、妹と二人で座ることが夢だった私は、あの時の涙を一生忘れたくありません。9歳も年が離れているけど、妹は妹だから、一生私が守りたいと思いました。現在はけんかもするけど、大切な家族だということを忘れず、これからの人生を二人で支え合いながら生活したいです。

【 入選 中学校の部 】

太陽な家族

伯方中学校 3年A組 のま みひろ
野間 瑞央 さん

春の外はあったかい。オレンジ色はあったかい。私の家族はあったかい。

私が母とけんかをした。自分が悪かったと思っではいるけど、なかなか謝れなかった。次の日の朝になり、私は母と一言もしゃべらず支度をした。言いたい事はたくさんあったけど、時間になったので、「行ってきます」と小さい声で言って家を出た。学校が終わって、部活が始まった。その日は練習に熱が入り、いつもより終わるのが遅くなった。急いで家に帰っていたら、父のバイクとすれちがった。私が父に手を振ると、「こんな所におったん。帰るのが遅くて心配だから、見てきてって母さんに言われたんよ」と言った。それを聞いて、私は早く母に会いたいと思い、急いで家に帰った。一番に、「ごめんなさい」と母に言った。すると母が「いいよ」と言ってくれた。

私の家族はあったかい。私の家族は太陽のような存在だ。

【 入選 中学校の部 】

冬の思い出

大三島中学校 3年A組 たはら かぐや
田原 神埜 さん

私達の家族は、冬になればみかん農家として働いています。みかんつみはほとんど皆でやり、力仕事は祖父、兄で、休憩時のお茶出しは祖母、母、私で、**分担**して頑張っています。

私が小学校低学年ぐらいの時、家族皆でイノシシの柵を取りつけに行きました。柵をつけるのは難しくまだ小さかった私は慣れない手つきで頑張りました。広い範囲を家族で協力し何時間もかけてつけた柵。私がつけた所は真っ先にイノシシが侵入してきそうでしたが、達成感はすごくありました。その後家に帰って食べたご飯は、何を食べたかは忘れましたが、とてもおいしかった記憶があります。

「家族のきずな」とは、私にとって大切な思い出です。寒い中、手をふるわせながら家族と作業した日々、世間話をしながら選果した日々は私の思い出であり私たち家族のきずなの象徴です。私は今年も冬が楽しみでたまりません。

伯方島 第11回「家族のきずな」エッセイ作品集

◇発行日：令和5年12月1日

◇主催・企画・運営：今治伯方モラロジー事務所

代表世話人 阿部 真三

〒794-2304

今治市伯方町北浦甲 1351-20

TEL：(0897) 73-0176

※ 当作品集に掲載の入賞作品の無断転載を禁じます